

注) この RCT は日本東洋医学会 EBM 委員会がその質を保証したものではありません

7. 眼の疾患

文献

高間直彦, 藤原隆明. 内麦粒腫に対する排膿散及湯の有効性. *眼科臨床医報* 2006; 100: 9-11. 医中誌 Web ID: 2006117653

1. 目的

急性期内麦粒腫に対する、排膿散及湯の有効性の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

病院 2 施設

4. 参加者

内麦粒腫患者で他の眼疾患、糖尿病合併のない患者 26 名
基礎治療として、抗生物質点眼 (0.3% オフロキサシン) + ステロイド点眼 (0.1% フルオロメトロン) を 1 日 4 回点眼

5. 介入

Arm 1: 基礎治療 + 食前にツムラ排膿散及湯エキス顆粒 7.5g 分 3 を併用投与した例 (16 名)

Arm 2: 基礎治療単独 (10 名)

6. 主なアウトカム評価項目

自覚症状改善までの期間、追加処置施行の有無

7. 主な結果

自覚症状改善までの期間: Arm 1 (2.2 ± 0.9) の方が Arm 2 (5.5 ± 4.1) より有意に短期間であった ($P < 0.001$)。

追加処置必要だった患者: Arm 1 は 1/16 (6.3%)、Arm 2 は 3/10 (30%) で有意差はなかった。

Arm 1 の患者で、3 日後に一旦治癒し、治療中止後 4 日に再発した症例が 1 名あった。

8. 結論

ツムラ排膿散及湯エキス顆粒は、多能性幹細胞の増加、分化ならびに GCSF の活性を誘導し、好中球減少の抑制作用があることを強く示唆する。

9. 漢方的考察

なし

10. 論文中の安全性評価

有害事象: 両 Arm とも有害事象なし

11. Abstractor のコメント

種々の炎症性疾患に対し、西洋医学では、抗生物質が抗炎症薬と併用して用いられる。近代になって抗生物質が発見される以前の医学である漢方医学においては、抗生物質と別の機序で病原微生物に対する治療が工夫されていた。

12. Abstractor and date

星野恵津夫 2009.3.15, 2013.12.31